

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-151	22-051	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
<p>The relationship between alcohol use and dementia in adults aged more than 60 years: a combined analysis of prospective, individual-participant data from 15 international studies</p> <p>60 歳以上の成人におけるアルコール使用と認知症の関係：15 の国際研究による前向き個人参加データの統合解析</p>		
執筆者		
Mewton L, et al, Collaborators from the Cohort Studies of Memory in an International Consortium (COSMIC).		
掲載誌		
Addiction. 2023 Mar;118(3):412-424. doi: 10.1111/add.16035.		
キーワード	PMID	
国際比較、認知症、疫学、IPD-MA (個票ベースのメタ解析)、高齢者	35993434	
要 旨		
<p>目的：低・中所得国からの報告も含め、アルコールと認知症の関係に関する国際的知見を統合する。</p> <p>方法：6 大陸の国々で行われた 15 件の前向き疫学コホート研究の個々の参加者データを用いてメタ解析を行った。Cox 回帰分析により、60 歳以上の高齢者におけるアルコール使用に関連する認知症リスクを検討した。追加解析では、性別および大陸別に層別化したサンプルにおけるアルコールと認知症の関係を評価した。参加者は、ベースライン時および少なくとも 1 回の追跡で行った認知症評価時に認知症の既往がないことを確認できた地域居住者 24,478 人であった。また主な評価項目は、臨床面接によって決定された全ての原因による認知症とした。</p> <p>結果：ベースライン時の平均年齢は 71.8 歳 (標準偏差 7.5、60~102 歳)、14,260 人 (58.3%) が女性、13,269 人 (54.2%) が現在飲酒者であった。151,636 人年の追跡期間中、認知症の発症は 2,124 例 (1,000 人年あたり 14.0 例) であった。禁酒者と比較すると、認知症リスクは、めったに飲まない群 [ハザード比(HR)=0.78, 95%信頼区間(CI)=0.68-0.89]、軽~中等度飲酒群 (HR=0.78 ; 95%CI=0.70-0.87)、中~重度飲酒群 (HR=0.62 ; 95%CI=0.51-0.77) で低かった。認知症リスクに関しては、生涯禁酒群と元飲酒群の間に差 はなかった (HR =0.98 ; 95%CI=0.81-1.18)。用量反応分析では、40g/日までの中等度の飲酒群は、生涯禁酒群と比較して認知症リスクの低下と関連していた。現在飲酒群では、認知症リスクに関する一貫したエビデンスはなかった。性別に層別化しても結果は同様であった。大陸レベルで分析すると、アルコールと認知症の関係にはかなりの不均一性があった。</p> <p>結論：禁酒は全原因による認知症のリスク増加と関連していた。現在の飲酒者の間では、晩年の飲酒量が認知症リスクと関連していることを示唆する一貫した証拠はないようである。</p>		